

不登校対応巡回教員による校内の取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校の頃から不登校であり、中学校入学後も、昨年度は校内の教職員とは顔を合わせることができなかった。今年度は、不登校対応巡回教員と学級担任が連携して毎週家庭訪問を実施し、継続的に会うことができている。

具体的な取組

○家庭訪問の実施

毎週水曜日または金曜日の夕方、不登校対応巡回教員が学級担任と一緒に家庭訪問を実施した。玄関先で、保護者とも一緒に話をしながら配布物を渡したり、学校や学年の活動について伝えるときに家庭での様子を共有したりした。

○デジタル機器を活用した支援

当該生徒の実態を考慮し、バーチャル・ラーニング・プラットフォームを紹介して、様々な人との関わりやつながりをもてるように促した。利用申請をする生徒が増え、効果的な活用が図られている。

○校内支援委員支援会議の開催

不登校対応巡回教員は、毎週金曜日に実施する校内支援会議に出席し、当該生徒の不登校生徒の状況や支援の様子等の状況把握や情報共有を行うとともに、今後の対策について助言を行った。対面で参加できない場合は、オンラインで出席した。

○教室巡回による生徒観察

未然防止の観点から、授業や休み時間に支援会議で名前が挙がる生徒だけでなく、全体の様子を観察した。巡回で得た情報等は支援会議で報告し、校内で共有を図った。



成果

中学校に入学してから一度も学校と関わりをもてなかった生徒が、家庭訪問を通じて学級担任と継続的に会うことができるようになった。

バーチャル・ラーニング・プラットフォームを通して、同年代の人たちとの関わりをもととする姿勢が見られるようになった。

課題

家庭訪問での関わりが、いつも同じような内容になってしまい、なかなか進展がない。また、巡回校での勤務が週1日のため継続的な支援や関係づくりが課題である。

不登校生徒に応じた支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校 2 年生から登校しぶりが始まり、教室に入れず、別室登校している。集団の雰囲気がつらく、パニックを起こすこともある。

中学校入学後、医療とつながることができ、日常生活に影響が出るほどの不安感があるとの診断を受ける。入学当初から教室に入れなくなり、担任との面談を毎週 1 時間ほど継続して行っている。

具体的な取組

○切れ目のない支援

週に 1 回程度、担任と当該生徒・保護者と面談した。S C とも面談した。支援の記録を作成して、教職員と共有した。

○医療との連携

当該生徒は、小学校時代から不安感が強く、医療につながることで体がなかなか難しかったが、S C と保護者とのカウンセリングを通じ、医療につながり、服薬も開始することができた。

○早期支援への取組

心のアンケートを毎学期ごとに実施し、「不登校の未然防止」に向けて分析するとともに、早期支援につなげた。小中連携により、入学当初から不登校対応巡回教員が当該生徒と関わり、別室登校につなげることができた。

○相談室の環境整備

3 年前に相談室を改装し、落ち着いて相談できる環境を整備した。家具や備品は、教室とは違った雰囲気になるよう工夫した。



○不安感の緩和

とても不安感が強いため、担任との面談時も面談場所を図書室や相談室など学級の雰囲気を感ぜさせない場所にするなど配慮した。

成果

担任、不登校対応巡回教員、S C、養護教諭との関わりを広げ、当該生徒にあった医療につなぐことができた。

課題

サポート教室等、別室登校を入学当初進めていたが、当該生徒の緊張感が高く、継続的な利用ができていない。

当該生徒の意向をくみ取り、少しでも卒業後の自立に向けての支援ができるよう、引き続き支援していく。

不登校対応巡回教員による校内体制の整備に係る取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、週2日別室登校をしている。教室に入ることはできていないが、継続的に登校はできている。行事等にも参加はできていないが、話ができる友人たちもいるため、人間関係に困っている様子はない。学習面や進路について不安をもっているため、担任と連携しながら支援を継続している。

具体的な取組

○別室登校生徒の支援

決まった曜日と時間に登校する生徒の個別対応を中心に、生徒が別室に登校しやすいような環境整備を行った。



また、別室利用を申請していない生徒に向けて、一部の時間帯を開放した。

○不登校生徒や保護者、担任との連携

巡回教員は、学級担任等と連携し、不登校生徒への電話連絡や家庭訪問、保護者との面談、別室登校した生徒の対応、支援指導を行った。

○支援会議の参加

巡回教員の毎週月曜日に実施する校内支援会議に参加し、当該校の不登校生徒の状況や支援の様子等の状況把握や情報共有を行った。また、生徒意識調査アンケートの結果等を踏まえた方針についても話し合うことができた。

○不登校未然防止を意識した授業の推進

巡回教員は、未然防止の観点から授業観察やT2として補助に入り、全体の流れから遅れてしまう生徒や、学習に抵抗がある生徒の対応を行った。また、授業内で気になった生徒情報等は支援会議で報告し、校内で共有を図った。

成果

校内別室について、一部の時間を従来の利用の仕方とは異なる新しい形で開放するということを学校全体に周知した。その結果、別室登校を目指す生徒が増えてきた。また、授業観察を通して生徒の実態把握をすることができ、学校の事情に合わせた支援指導につなげられるなど、未然防止の取組を図ることができた。

課題

別室登校対応や家庭訪問での関係づくりにかかる時間を捻出する。

それぞれの生徒の状況に応じた支援と取組の成果について分析し、改善を図る。

不登校対応巡回教員による生徒に応じた不登校支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、友人関係や学習面に不安を抱えており、1 学期の後半から登校しぶりが目立つようになった。自分を知ってもらいたい気持ちが強いため、会話の際も一方的に話すことが多く、コミュニケーションにも課題があった。こうした当該生徒の特性に合った支援が必要であることから、不登校対応巡回教員が支援に当たることとなった。

具体的な取組

○別室対応による学習の支援

校内別室に登校した際には、学習支援を行っている。特に定期考査前などはテスト勉強に重点を置き、当該生徒が少しでも前向きに定期考査に参加できるよう支援した。



○授業観察による実態把握

在籍学級での友人関係や授業中のトラブル、学習についていけないなどが不登校の原因である可能性も考慮し、本生徒が教室授業に参加する際は、授業観察を行っている。その際に把握した実態について、担任やサポート教室支援員などと共有し支援の改善を図っている。

○相談活動等での支援

当該生徒の人間関係の不安を減らしたり、自信をもたせるようにしたりするために、定期的に相談活動を行っている。また、相談での対話を通して、適切なコミュニケーションの取り方を指導し、徐々に成果が上がっている。バーチャル・ラーニング・プラットフォームの紹介も積極的に行った。

○校内体制の強化

不登校対応巡回教員は、週 1 回行われる校内支援委員会に出席し、当該生徒の情報共有や関係職員との連携を図った。また、支援の方向性なども確認し、校内で統一した方針で対応している。

成果

支援を行う中で、当該生徒との信頼関係を構築した。その結果、当該生徒の登校日数が増え、気持ちも安定してきている。学習にも前向きに取り組む時間が増えてきている。

課題

今後も継続的な支援を行うことで、新たな課題を見付け対応していくとともに、教室復帰を目指していく。